

科目名	失語症Ⅱ					授業の種類	演習	必修・選択	必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年 前期
【授業の目的・ねらい】 失語症について医学的観点からその基礎となる領域について学び、今後の言語治療に役立てることができる。									
【実務者経験】 幸生病院、ドレミリハビリテーション、機能訓練教室等にて、言語聴覚士として失語症治療に従事。									
【授業全体の内容の概要】 失語症と周辺の言語症状について評価・診断・訓練の基本的な知識と技術を身につける。 臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。									
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 失語症の基礎を身につけ、言語治療の枠組みを理解できる。失語症の言語療法に必要な実践能力を身につける。									
回数	講義内容								準備物(教材)
1	認知神経心理学的情報処理モデルを復習し理解できる。								
2	失語症患者(症例Ⅱ)の紹介を通して情報収集(言語面・医学面・生活面・社会面)ができる。								
3	失語症の言語治療の理論と技法(具体的な提案)、教材を知ることができる。								
4	(症例Ⅱ)を用いて標準失語症検査の実習を行い、技能を身につける。								
5	(症例Ⅱ)を用いて標準失語症検査の結果を確認し、その技能を身につける。								
6	(症例Ⅱ)を用いて言語治療評価報告書の作成技能を身につける。								
7	訓練プログラムの立案(長期目標・短期目標・訓練内容・訓練の手順など)ができる。								
8	訓練計画に基づく教材作成ができる①								
9	訓練計画に基づく教材作成ができる②								
10	言語訓練の予行演習を通して技能を身につける。								
11	言語訓練の実習を通して技能を身につける。(訓練の様子を録画する)								
12	言語訓練の様子をVTRで確認し、問題点などを抽出できる。								
13	症例報告書の作成ができる。(1)								
14	症例報告書の作成ができる。(2)								
15	症例報告書の作成ができる。(3)								
定期筆記試験									
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 失語症学』医学書院									
【準備学習・時間外学習】 予習としてテキストを読んでおくことや講義後の復習、検査の練習や訓練計画、訓練材料の準備が必要です。									
【単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など)】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 定期試験70点、小テスト10点、課題の評価20点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。									